

2024年度自賠責運用益拠出事業

**車いす移動車利用時の車椅子簡易固定システム
の社会実装に向けた研究**

**中間(2年計画の1年目)報告書
< 概要編 >**

**2024年12月26日
一般社団法人 日本福祉車輛協会 内
車椅子簡易固定標準化コンソーシアム**

1. 研究概要

<背景>

- ・通所介護施設や福祉タクシー等で多く使われている車いす移動車は、ご利用者様が車椅子にお乗りになった状態で車椅子を固定する必要がある。
- ・車いす移動車メーカーは、世界的に標準となっている「車椅子の前後4点をフックで固定(*1)」する装置を設定している。

<課題>

- ・車椅子の固定作業は運用者の作業負担が大きく、固定作業不良による事故懸念もあり、車椅子移送の大きな課題(*2)になっている。
- ・車椅子と車いす移動車メーカーはこの課題を解消するため、車椅子簡易固定システム(*3)を考案し、行政と連携して標準化を推進しているが、普及には運用者に実際にお使いいただき、メリットを実感いただくこととそのメリットの幅広い訴求が不可欠。

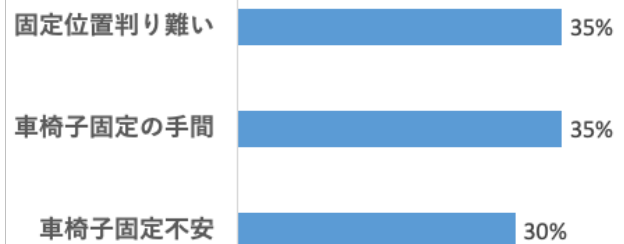
<研究概要と狙い>

- ・日本在宅介護協会様より紹介いただいた通所介護事業所(*4)に簡易固定対応の車椅子と車いす移動車を貸与、3か月間実際に使用いただき、事故に繋がるヒヤリハットの減少(撲滅)とその他の効用を記録/聴取し、車椅子簡易固定システム採用メリットのエビデンスとして活用する。(本年は3施設に車両を計5台、車椅子を計12台貸与)

*1:車椅子移動車内の車椅子4点固定



*2:法人事業者の車椅子移動車の困り事(Top3)



自動車工業会 福祉車両法人ユーザー調査(2019)

*3:車椅子簡易固定システム



4点フックを用いず
アンカーバーで車椅子を固定

*4:研究に協力いただいた施設



2. 結果概要

(1) 車椅子固定に纏わるヒヤリハット撲滅～運行記録の結果

- ・貸与車両(3施設で計ハイエース2台、スペースシア3台)を3ヵ月送迎にお使いいただいた結果、ヒヤリハット0件。但し比較のため同期間に記録をいただいていた従来固定方式の送迎でもヒヤリハットは1件で顕著に優位とはならず。
- ・研究期間終了後の運用者インタビューによると、車椅子固定に纏わるヒヤリハットの経験者は多いことが確認できたが、研究に参加いただいた優良施設では再発防止が徹底しており3ヵ月程度の期間ではヒヤリハット捕捉は難しい事が判明。

(2) 簡易固定のメリット確認/評価～アンケート・インタビューから

- ・"直接メリット"は概ね80%以上の積極評価(非常に+やや)をいただき高評価、且つ否定的評価が皆無で大変好評。"間接的メリット"も概ね高評価。
- ・"従来方式との比較"や"施設導入希望"の積極評価は約半数に留まるが、3年以上の経験者層では"直接メリット"同等の高評価。インタビューで背景確認の結果、経験者層は課題解決の重要性認識から積極評価も、経験浅層はご利用者様の車椅子を簡易固定対応に変える困難さから、簡易固定の普及懸念が先に立つためと判明。
- ・インタビューでは更に、固定やり直しの解消、固定フックの収容不要、立ち姿勢のまま車椅子固定が完了することによるご利用者やそのご家族との会話増等、メーカーが認識している以上の効用が判明。
→**ご利用者の対応車椅子普及の工夫と幅広い簡易固定採用メリットの訴求が重要**

研究終了時の運用者アンケート結果

数値単位は全て%、回答者数は最大26名(質問により異なる)

